

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870501289
法人名	有限会社ミキハウス
事業所名	グループホームしおさい
所在地	愛媛県新居浜市阿島一丁目7番27号
自己評価作成日	平成21年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 12 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所としては職員一同が研修に参加したり、勉強会を開いたりして知識や技術だけでなく心の資質向上にも努めている。入居者の方の多様な生活・文化・価値観を尊重し、人間の尊厳を根底においた倫理性をもつサービスを提供している。老化や色々な障害によって支障をきたしているその人の生活を可能な限り自立したものになるように支援していくように職員一同努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かで落ち着いた環境の中に建つ平屋のホームで、利用者はゆったり・ゆっくりとそれぞれのペースで生活している。運営者や管理者は、質の高いサービスには職員の学習が重要と考え、職員の各種研修への参加をすすめている。職員は利用者の思いや生活リズムを大切にしながら、一人ひとりの自立に向けた支援に努めている。ホームは地域の自治会に加入し、秋祭り、文化祭、盆踊り等に参加している。また、地域の方が絵手紙や紙芝居のボランティアでホームを訪れてくれたり、採りたての野菜を届けてくれる等の交流がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームしおさい

(ユニット名) ユニット1

記入者(管理者)

氏名 加藤 博

評価完了日 平成21年 11月 1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員全員で話し合い事業所独自の理念をつくり、管理者及び職員はその理念を常に念頭に置き、業務にあたっている。</p> <p>(外部評価) スタッフ会で話し合っつくれた分かりやすい理念である。理念の要点は「ゆっくり、ゆったり、笑顔で、地域とのつながりを大切に…」等となっている。職員は理念の「ゆっくり、ゆったり」を利用者のペースにそった支援をすることで、また、「笑顔で」をケアには必須なものと考えていること実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の自治会や行事等にも積極的に参加し、交流するように努めている。</p> <p>(外部評価) ホームは地域の自治会に加入し、利用者とともに地域の秋祭りで太鼓台の見学を楽しんだり、文化祭や盆踊りで地元の方とふれあうなどしている。地域の方が絵手紙、マンドリン演奏、紙芝居のボランティアでホームを訪れてくれたり、近所の方が野菜を届けてくれる等の交流がある。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の人からの電話相談にも積極的に応じている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、情報交換を積極的に行い、そこで出た意見は施設にて検討し、サービス向上につなげている。	
			(外部評価) 会議ではホームの状況、行事、外部評価結果、職員研修等について報告し、時にはホームの昼食会に参加していただく等の柔軟な運営をしている。会議での率直な意見や情報をサービスの質の向上に活かしている。毎回、職員が会議に参加しており、職員の学習の機会ともなっている。	ホームの課題について検討したり、介護保険や認知症のミニ勉強会を行う等、より一層ホームの理解につながるような多角的な会議運営となることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村担当者とは運営推進会議以外においても、電話や介護保険申請にうかがった際に、解からないことや困ったことについて相談・助言を頂いている。	
			(外部評価) 市の担当者には、利用者や職員の状況を報告したり、ケアサービスについて相談したり、事故報告書を提出する等、日頃から連携に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間の防犯目的の施錠以外、身体拘束につながるケアは行っていない。	
			(外部評価) 職員は研修会等を通じて学習を重ね、身体拘束の弊害を認識したうえで実践に取り組んでいる。玄関は、昼間は自由に出入りできるよう鍵はかかかっていない。日々の生活においても職員同士が声をかけ合って、拘束しないケアを心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 事業所内での虐待は考えていない。高齢者虐待防止法関連法について外部研修等には参加しているが、事業所内での勉強会は行っていない。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者及び職員は、成年後見制度や福祉サービス利用援助事業など、権利擁護に関する制度について研修やスタッフ会を通じて学び、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分に時間をとり、家族や入居者本人の不安や疑問点の解消に努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者の意見については、介護相談員の受け入れることにより、不満などを出来るだけ聞きだせる体制をとっている。また、家族の意見については、面会時や家族会において不満や要望をお聞きしている。 (外部評価) 利用者の思いは日々の会話や表情、介護相談員からの情報等から把握し、家族の意見は来訪時の会話、運営推進会議や家族会等で聞き取り、それらを運営に反映させている。苦情相談窓口は内部と外部に分けて関係書類に記載し、家族にも説明している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 管理者は、合計月三回のスタッフ会に参加し、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、施設運営に反映させている。</p> <p>(外部評価) 管理者やユニット責任者は、スタッフ会で職員の意見を聞き、運営に反映させている。職員の意見により戸棚をつけたり、手すりを追加したり、可能な限り休日の希望を入れる等、意見の反映に努めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 代表者は介護職員処遇改善交付金を活用するなど、出来る限りの給与水準の引き上げ、研修の充実など職員各自が向上心を持って働ける職場環境・条件の整備に努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 各職員の経験に応じて、外部の研修に参加する機会を確保している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 毎年、相互評価事業にも参加し、他施設との交流に努めている。また、研修等にも積極的に参加し、他施設の職員とも積極的に情報交換を行っている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 事前に入居者本人と十分に話をする時間を確保し、不安や要望の把握に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居者本人と同様に、家族とも入居前に十分に話をする時間を確保し、不安や要望の把握に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談受付時は、当グループホーム利用が適切であるかどうかを含め、他のサービス利用による支援についても助言・相談を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一年を通じて昔ながらの習慣や、行事について職員が学ぶところ大きく、ともに学び支えあう関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族からの相談には、誠意をもって職員もともに考え対応している。面会時には、「何かお聞きしたいことはないですか？」など、積極的にお聞きするようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 敬老の日など、地元での催しがあれば、参加を家族と相談するなどしている。 (外部評価) 家族、友人、知人等の来訪時には話しやすい雰囲気づくりを心がけている。墓参りや葬式等にも行けるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 自然に入居者同士が支えあう関係ができており、職員は今の関係が認知症の進行等によって崩れないよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用が終了しても、継続的な関わりが必要な入居者や家族には、関係を断ち切らないようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 各入居者に担当者をつけ、担当者は特に担当入居者の状況把握に努めている。レベルの低下にて把握が困難な入居者も居られが、過去に把握した情報を活かし、安心・安楽な環境の提供を図っている。	
			(外部評価) 一人ひとりの思いや希望は、日々の関わりの中で会話、表情、顔色等から把握している。利用者の希望に応じて家族に電話をかけたたり、買い物に出かけたりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に自宅に訪問し、本人や家族より情報集取を行っているが不十分な所もある為、入居後も家族や知人の面会時など継続した情報集取を行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活リズムや身体状況については事前に把握するように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の要望は日頃から把握に努め、介護計画に活かしている。 (外部評価) 担当職員が計画の案を作り、利用者や家族の意見を反映しながら、スタッフ会で話し合っ介護計画を作成している。計画は月1回のサービス担当者会議で見直している。利用者の状況に変化がなくても、3か月に1回はモニタリングしている。計画の内容を日課計画書にあげ、実践につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日頃と変わった言動や身体状況については、詳しく記録するようにしており、介護計画の見直しに活かせるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 通院は原則家族に依頼しているが、家族が都合がつかない時は職員が付き添うなど、臨機応変に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生委員さんやボランティアとのつながりを大切に考えており、絵手紙に月2回、毎月の誕生会でもマンドリンや紙芝居など多くのボランティアさんに来ていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人や家族の望むかかりつけ医となっている。受診 は基本的に家族にお願いしているが、必要時は看護師 が同行したり、家族に用事がある時などは職員が付き 添っている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援し ている。受診時の付き添いは基本的には家族での対応 としているが、利用者や家族等の状況により、職員、 特に看護師が同行している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 常勤の看護師を配置しており、日頃の体調管理や状 態変化に応じた支援を行えるようにしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時は、看護師やケアマネが情報提供に努め、出 来るだけ安心した入院生活を送れるよう支援してい る。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化した場合の対応については、契約時に家族に 説明している。</p> <p>(外部評価) 重度化や終末期の支援は、医療行為の必要となる段階 の直前までとしており、このことを早い時期から利用 者や家族に説明し、話し合っている。看取りに関する マニュアルを作成している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時の対応については、スタッフ会において看護師より職員に講習を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の防災訓練にて、災害時の避難・誘導について訓練を行うとともに、自治会を通じて地域の方にも協力を呼びかけている。 (外部評価) 防災訓練は年2回、消防署の協力を得ながら夜間想定も含めて実施している。災害時の避難誘導にあたり、地域に対して協力を呼びかけているが、近所の方が訓練に参加するまでには至っていない。	災害時、職員だけの誘導には限界がある。地域の中でも特に近所の方の協力が得られるよう、運営推進会議等を通じて話し合い、一緒に訓練を行う等の取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 排泄介助や入浴介助時など、特にプライバシーの確保が必要な場面においても全職員がプライバシーを守れているとは言えない。 (外部評価) トイレ誘導をさりげなく小声で行う、着替えを居室でカーテンを閉めて行う、状況によっては同性の職員が入浴介助する等、一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した対応を心がけている。記録類は事務室で保管し、個人情報保護には十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入居者がどうしたいかを見極めるとともに、細かなことでも本人が選ぶ場面を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) スタッフ会にて個人のペースを大切にしよう話し合っているが、まだ職員のペースや都合を押しつけている場面が見られる。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 服にこだわる入居者さんには、職員が付き添い一緒に服を買いに行くなどその人に応じた支援を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 簡単な食事の準備や片付けをしていただくなど、入居者が少しでも力を発揮できるよう支援している。 (外部評価) 利用者は、職員と一緒に料理の下ごしらえ、下膳、食器洗いや食器拭き等を行っている。職員は利用者の状態に合わせて刻み食にしたり、時間がかかっても自力で食事する方を温かく見守る等の支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分量はチェック表に記入し、毎日の食事メニューが重ならないよう献立表を作成している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、入居者一人ひとりに合った支援を行い、口腔内の清潔保持を心がけている。週に1回訪問歯科診療を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) オムツの利用は極力控え、入居者に応じたトイレ誘導を行い自立にむけた支援を行っている。	
			(外部評価) 紙パンツを使用する方や、夜間のみおむつを使用する方もいるが、排泄パターンを把握したうえで声かけやトイレ誘導を行い、可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援している。排泄介助では特に、トイレのドアをきちんと閉めるよう心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 日々の散歩や体操などにより、便秘の解消に努めているが十分とは言えず、看護師の指示のもとカマグ等を使用し排便コントロールを行っている	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本的に入浴日は決まっているが、本人から希望があった場合は入浴日以外でも入浴支援を行っている。 また、男性職員に抵抗がある入居者さんに対しては、女性職員が介助にあたるなど個々の入居者に合わせた支援を行っている。	
			(外部評価) 週3回の入浴が基本となっているが、受診前日や外出前、散髪後等に入浴を希望する利用者には、その都度柔軟に対応している。異性の職員の入浴介助を好まない利用者には同性の職員が支援する等、十分配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中でも休みたい場合はホール畳スペースで横になってもらうなど、本人の意思を出来るだけ尊重している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 入居者別のカルテに、薬の説明シートを挟み、いつでも職員が確認出来るようにしている。 また、重要な薬については、看護師より介護職員に詳しい説明を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 掃除や洗濯たみなど本人の力を活かした役割づくりを行っている。また、ボランティアの協力により絵手紙づくりなど十分とは言えないが、楽しみごとについても支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天候が良い場合は、一人ひとりの体力に合わせて散歩支援を行い、気分転換を図っている。	
			(外部評価) 利用者の希望に応じて、近くを散歩したり、コンビニエンスストアに買い物に行ったり、畑の草ひきや野菜の収穫をしたり、玄関先のベンチで外気浴をしたり、庭にテントを張っておしゃべりやコーラスを楽しむ等、利用者の日々の楽しみを支援している。行事で花見や紅葉狩りに出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望する入居者さんには、一定額の金銭を所有していただき、買い物により所持金が少なくなった場合は、職員が預かり金より補充している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望があれば支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節折々の置物や飾り物を、入居者の皆さんと実施している。	
			(外部評価) ホーム内は明るく、ゆったりとしている。居間には畳の間があり、見やすい時計やカレンダー、観葉植物があり、行事の写真や利用者の作品を飾り、心地よく過ごせるよう工夫している。台所、浴室、トイレ等は清潔で、気になる匂い等もない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 仲よし同士の入居者の方の居室の出入り、ホールやテラスに設けられたベンチは、皆さんの自由に使用され、好みの場所にてコミュニケーションが図られている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者から希望の品について申し出があれば、家族に連絡し持参して頂き使用してもらっている。	
			(外部評価) 居室には利用者の使い慣れた小ダンス、衣装ケース、時計、仏壇等を持ち込み、家族写真や手作り作品を飾っており、畳の部屋等もあるなど、それぞれが居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ等の表示や手すりの設置などにより、出来るだけ自立した生活が送れるよう支援している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870501289
法人名	有限会社ミキハウス
事業所名	グループホームしおさい
所在地	愛媛県新居浜市阿島一丁目7番27号
自己評価作成日	平成21年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 12 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居前後での生活の連続性に配慮し、入居者一人ひとりの個性・心身の状況・入居に至るまでの生活歴と、その中で培われてきた生活様式・習慣を、できる限り把握した上で、一人ひとりの生活を尊重した支援・ケアを行っている。
(高齢者にとってどのような様な生活環境が大切であり、どのように暮して行くのが望ましいのかを職員一同理解しつつ、入居者一人ひとりのペースにあった支援・ケアに努めている。また、一日を通して笑い声の絶えない環境の提供を心がけている。)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かで落ち着いた環境の中に建つ平屋のホームで、利用者はゆったり・ゆっくりとそれぞれのペースで生活している。運営者や管理者は、質の高いサービスには職員の学習が重要と考え、職員の各種研修への参加をすすめている。職員は利用者の思いや生活リズムを大切にしながら、一人ひとりの自立に向けた支援に努めている。ホームは地域の自治会に加入し、秋祭り、文化祭、盆踊り等に参加している。また、地域の方が絵手紙や紙芝居のボランティアでホームを訪れてくれたり、採りたての野菜を届けてくれる等の交流がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームしおさい

(ユニット名) ユニット2

記入者(管理者)

氏名 加藤 博

評価完了日 平成21年 11月 1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員全員で話し合い事業所独自の理念をつくり、管理者及び職員はその理念を常に念頭に置き、業務にあたっている。</p> <p>(外部評価) スタッフ会で話し合っつくれた分かりやすい理念である。理念の要点は「ゆっくり、ゆったり、笑顔で、地域とのつながりを大切に…」等となっている。職員は理念の「ゆっくり、ゆったり」を利用者のペースにそった支援をすることで、また、「笑顔で」をケアには必須なものと考えていること実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の自治会や行事等にも積極的に参加し、交流するように努めている。</p> <p>(外部評価) ホームは地域の自治会に加入し、利用者とともに地域の秋祭りで太鼓台の見学を楽しんだり、文化祭や盆踊りで地元の方とふれあうなどしている。地域の方が絵手紙、マンドリン演奏、紙芝居のボランティアでホームを訪れてくれたり、近所の方が野菜を届けてくれる等の交流がある。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の人からの電話相談にも積極的に応じている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、情報交換を積極的に行い、そこ で出た意見は施設にて検討し、サービス向上につなげ ている。	
			(外部評価) 会議ではホームの状況、行事、外部評価結果、職員研 修等について報告し、時にはホームの昼食会に参加し ていただく等の柔軟な運営をしている。会議での率直 な意見や情報をサービスの質の向上に活かしている。 毎回、職員が会議に参加しており、職員の学習の機会 ともなっている。	ホームの課題について検討したり、介護保険や認知症 のミニ勉強会を行う等、より一層ホームの理解につな がるような多角的な会議運営となることを期待した い。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 市町村担当者とは運営推進会議以外においても、電 話や介護保険申請にうかがった際に、解からないこと や困ったことについて相談・助言を頂いている。	
			(外部評価) 市の担当者には、利用者や職員の状況を報告したり、 ケアサービスについて相談したり、事故報告書を提出 する等、日頃から連携に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行っていない。	
			(外部評価) 職員は研修会等を通じて学習を重ね、身体拘束の弊害 を認識したうえで実践に取り組んでいる。玄関は、昼 間は自由に出入りできるよう鍵はかかかっていない。 日々の生活においても職員同士が声をかけ合って、拘 束しないケアを心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 事業所内での虐待は考えていない。高齢者虐待防止法関連法について外部研修等には参加しているが、事業所内での勉強会は行っていない。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者及び職員は、成年後見制度や福祉サービス利用援助事業など、権利擁護に関する制度について研修やスタッフ会を通じて学び、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分に時間をとり、家族や入居者本人の不安や疑問点の解消に努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者の意見については、介護相談員の受け入れることにより、不満などを出来るだけ聞きだせる体制をとっている。また、家族の意見については、面会時や家族会において不満や要望をお聞きしている。 (外部評価) 利用者の思いは日々の会話や表情、介護相談員からの情報等から把握し、家族の意見は来訪時の会話、運営推進会議や家族会等で聞き取り、それらを運営に反映させている。苦情相談窓口は内部と外部に分けて関係書類に記載し、家族にも説明している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は、合計月三回のスタッフ会に参加し、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、施設運営に反映させている。 (外部評価) 管理者やユニット責任者は、スタッフ会で職員の意見を聞き、運営に反映させている。職員の意見により戸棚をつけたり、手すりを追加したり、可能な限り休日の希望を入れる等、意見の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、介護職員処遇改善交付金を活用するなど、出来る限りの給与水準の引き上げ、研修の充実など職員各自が向上心を持って働ける職場環境・条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 各職員の経験に応じて、外部の研修に参加する機会を確保している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 毎年、相互評価事業にも参加し、他施設との交流に努めている。また、研修等にも積極的に参加し、他施設の職員とも積極的に情報交換を行っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に入居者本人と十分に話をする時間を確保し、不安や要望の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居者本人と同様に、家族とも入居前に十分に話をする時間を確保し、不安や要望の把握に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談受付時は、当グループホーム利用が適切であるかどうかを含め、他のサービス利用による支援についても助言・相談を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常的な作業の中で、本人ができる作業は職員と一緒にしていただき、コミュニケーションをより深め、関係作りに努めている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 頻回に面会に来て下さる家族さんが多く、本人の不安解消の為に色々な協力を職員がお願いする事があるが、快く協力して下さっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会者の把握と、その方々への声かけに配慮している。敬老会等、地元での催し会には参加を家族と相談するなどしている。 (外部評価) 家族、友人、知人等の来訪時には話しやすい雰囲気づくりを心がけている。墓参りや葬式等にも行けるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者全員が出来るだけ参加可能なレクリエーションを提供し、皆で仲良く楽しめる様に職員が調整役となり、支援できるよう努めている。また、入居者同士の関係の変化の把握を、職員間の申し送りの徹底にて意識統一に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了しても、必要に応じて相談や支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 各入居者に担当者をつけ、担当者は特に担当入居者の状況把握に努めている。レベルの低下にて把握が困難な入居者も居られが、過去に把握した情報を活かし、安心・安楽な環境の提供を図っている。 (外部評価) 一人ひとりの思いや希望は、日々の関わりの中で会話、表情、顔色等から把握している。利用者の希望に応じて家族に電話をかけたたり、買い物に出かけたりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に自宅訪問し、本人や家族より情報収集を行っているが不十分な点もある為、入居後も家族や知人の面会時などで、継続した情報収集を行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送りの徹底を図り、職員間に入居者の把握に努め現状を知る。生活リズムや身体状況については、事前に把握するように努めている。 昼夜逆転する入居者も居られるが、一日を通して安心した生活をして頂けるように心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 一ヶ月毎にサービス担当者会議・モニタリング等で、介護計画の見直しを行い、新規介護計画については、家族や本人に説明し印鑑をもらうようにしている。</p> <p>(外部評価) 担当職員が計画の案を作り、利用者や家族の意見を反映しながら、スタッフ会で話し合っって介護計画を作成している。計画は月1回のサービス担当者会議で見直している。利用者の状況に変化がなくても、3か月に1回はモニタリングしている。計画の内容を日課計画書にあげ、実践につなげている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 日々の水分量・排泄・入浴等チェック欄を設け、把握に努めるとともに、気づきを記録に残しプランや日頃のケアに活かせるよう努めている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 通院は原則家族に依頼しているが、家族が都合がつかない時は職員が付き添うなど、臨機応変に対応している。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 民生委員さんやボランティアとのつながりを大切に考えており、絵手紙に月2回、毎月の誕生会でもマンドリンや紙芝居など多くのボランティアさんに来ていただいている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人や家族の望むかかりつけ医となっている。受診 は基本的に家族にお願いしているが、必要時は看護師 が同行したり、家族に用事がある時などは職員が付き 添っている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援し ている。受診時の付き添いは基本的には家族での対応 としているが、利用者や家族等の状況により、職員、 特に看護師が同行している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 常勤の看護師を配置しており、日頃の体調管理や状 態変化に応じた支援を行えるようにしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時は、看護師やケアマネが情報提供に努め、出 来るだけ安心した入院生活を送れるよう支援してい る。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化した場合の対応については、契約時に家族に 説明している。</p> <p>(外部評価) 重度化や終末期の支援は、医療行為の必要となる段階 の直前までとしており、このことを早い時期から利用 者や家族に説明し、話し合っている。看取りに関する マニュアルを作成している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に看護師の指導のもと、応急手当や初期対応の訓練を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の防災訓練にて、災害時の避難・誘導について訓練を行なうとともに、自治会を通じて地域の方にも協力を呼びかけている。 (外部評価) 防災訓練は年2回、消防署の協力を得ながら夜間想定も含めて実施している。災害時の避難誘導にあたり、地域に対して協力を呼びかけているが、近所の方が訓練に参加するまでには至っていない。	災害時、職員だけの誘導には限界がある。地域の中でも特に近所の方の協力が得られるよう、運営推進会議等を通じて話し合い、一緒に訓練を行う等の取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩としての尊厳を念頭に置き、スタッフ会等で職員間の意識向上に取り組んでいる。 (外部評価) トイレ誘導をさりげなく小声で行う、着替えを居室でカーテンを閉めて行う、状況によっては同性の職員が入浴介助する等、一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した対応を心がけている。記録類は事務室で保管し、個人情報保護には十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の話を良く聞き、ゆっくりと会話をして意思疎通に努めている。又、その人の思いの共有に努め、無理強いがないよう自己決定に配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 各入居者の皆さんが出来る事で、役割を持ったメリハリのある生活が送れるよう支援している。 転倒の危険がある入居者には、出来るだけ職員が付き添い自由に行動していただける事により、各入居者がどんな事が出来るかを探し、試みる援助を心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入居者によっては、いつも行かれる美容院を利用したり、化粧もされる方もおられる。服装もご自分の好みを選んで楽しまれています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) その日のメニューによって入居者の皆さんにも下ごしらえをして頂き、出来上がった料理についても話をされています。また、後片付けも職員と一緒に分担しながら行っています。	
			(外部評価) 利用者は、職員と一緒に料理の下ごしらえ、下膳、食器洗いや食器拭き等を行っている。職員は利用者の状態に合わせて刻み食にしたり、時間がかかっても自力で食事する方を温かく見守る等の支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分量はチェック表に記入し、毎日の食事メニューが重ならないよう献立表を作成している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、入居者一人ひとりに合った支援を行い、口腔内の清潔保持を心がけている。週に1回訪問歯科診療を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) オムツの利用は極力控え、入居者に応じたトイレ誘導を行い、自立にむけた支援を行っている。	
			(外部評価) 紙パンツを使用する方や、夜間のみおむつを使用する方もいるが、排泄パターンを把握したうえで声かけやトイレ誘導を行い、可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援している。排泄介助では特に、トイレのドアをきちんと閉めるよう心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘予防の為、体操・散歩等で体を動かすと共に、飲食物の工夫も行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週3回の入浴日を設けているが、散髪・受診・体調により臨機応変に対応している。 入浴日以外でも希望があれば対応している。	
			(外部評価) 週3回の入浴が基本となっているが、受診前日や外出前、散髪後等に入浴を希望する利用者には、その都度柔軟に対応している。異性の職員の入浴介助を好まない利用者には同性の職員が支援する等、十分配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中ウトウトされる入居者には、声かけをして自室にて休んで頂くようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人のファイルに薬の説明書を綴じており、いつでも確認出来るようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事の準備、食後の片付け、洗濯物についても入居者同士が協力されて行なってくれます。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節にもよりますが、天候のよい日は決まった散歩コースに出かけ、歌を唄ったり花を見て、四季を楽しみながら歩かれている。暑い時などは園庭内にテントを張り、ベンチに腰掛けて懐かしい歌をコーラスもされています。 (外部評価) 利用者の希望に応じて、近くを散歩したり、コンビニエンスストアに買い物に行ったり、畑の草ひきや野菜の収穫をしたり、玄関先のベンチで外気浴をしたり、庭にテントを張っておしゃべりやコーラスを楽しむ等、利用者の日々の楽しみを支援している。行事で花見や紅葉狩りに出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理は原則施設が行っていますが、本人希望にて近くのコンビニなどへの買い物や、外出時には本人に手渡し自由に使っていただく。入居者によっては、家族了解のうえで小額本人が管理されている方もおおいでる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望により家族・友人への電話も行っている。また、年賀状や暑中見舞いなど職員が代筆することもありますが、できるだけ本人に書いていただく。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の飾り物など入居者の皆さんと一緒にコミュニケーションを取りながら作成し、飾りつけをして季節感を出すよう工夫している。	
			(外部評価) ホーム内は明るく、ゆったりとしている。居間には畳の間があり、見やすい時計やカレンダー、観葉植物があり、行事の写真や利用者の作品を飾り、心地よく過ごせるよう工夫している。台所、浴室、トイレ等は清潔で、気になる匂い等もない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ホール・ベランダ・テントの下など入居者の皆さんが思い思いの場所で、他の入居者の方達とコミュニケーションが取れるように工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者の個人的で使い慣れた物があれば、家族の方に連絡・相談しながら持参していただいて、入居者の方が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
			(外部評価) 居室には利用者の使い慣れた小ダンス、衣装ケース、時計、仏壇等を持ち込み、家族写真や手作り作品を飾っており、畳の部屋等もあるなど、それぞれが居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各入居者の方達個人が出来る事は、本人で行って頂き、自立した生活が送れるよう支援・工夫を行っている。	